

今年の待降節からミサ典礼が変わります

1964 年以前、ミサはラテン語で行われていました。

- 1964 年、第二バチカン公会議の典礼刷新により、それまでラテン語で行われていたミサは、それぞれの地域の言語で行われるようになった。
- 1975 年、「ローマ・ミサ典礼書」規範版第二版が発行され、これに基づいて
- 1978 年、現在の日本語版「ミサ典礼書」が暫定版として発行された。
- 2000 年より改訂作業が本格化。• 2001 年典礼秘跡省から規範版に忠実な翻訳が求められる
- 2021 年、規範版第三版に基づく「ミサの式次第と第一～第四奉献文」等が典礼秘跡省に認証されたため、ようやく日本語のミサ典礼書の決定版の完成となった。

つまり、ラテン語のミサ典礼書を日本語に忠実に翻訳するために半世紀かかりました。



どこを、なぜ、変えるのか、
くわしく知りたい方のために
本が出版されています。

『新しい「ミサ式次第と第一～
第四奉献文」の変更箇所』

カトリック中央評議会発行
(本体 260 円+税)

サンパウロなどの書店で。
通販でも購入できます。

2021年10月24日、大阪教区典礼研修会が仁川教会にて行われました。

コロナ禍の為、非公開のオンライン配信になりましたので、視聴された方もおられたと思います。

今回のテーマは【新しい「ローマ・ミサ典礼書」の実施に向けて】について。

今年の待降節第一主日(11月27日)より実施される主日のミサのミサ式次第改定に関する内容説明がありました。

司祭の祈りのことば、会衆の応唱のことばとタイミング、賛歌の内容と歌唱の場合の旋律等が変更されるため、実施に向けて信徒の皆さんの協力が必要となります。後日、会衆用式次第も作成される予定ですが、今回の改定に伴い様々な対応も増えてきます。皆さんにご協力をお願いする場面も多々あると考えられますので、その際はよろしくお願ひします。(典礼)